

第2回水稻病虫害発生状況の調査結果について

兵庫県農業共済組合佐用事務所
JA兵庫西佐用営農生活センター
光都農業改良普及センター
令和4年7月11日

1 気象と水稻の生育状況

6月の気温は上旬は平年並でしたが、中旬以降は平年より高く推移しました。今年の梅雨は6月14日から6月28日までの短い期間であったため、降水量は平年より少なく、日照時間は平年以上となりました。水稻の生育は草丈、茎数ともほぼ平年並か、平年より多くなっています。

2 調査結果（調査日7月7日）

病虫害名	調査結果の概要
いもち病	一部の圃場で発生を確認しました。
紋枯病	調査圃場では、発生が確認されませんでした。
縞葉枯病	調査圃場では、発生が確認されませんでした。
ウンカ類	一部の圃場で発生を確認しました。
ツマグロヨコバイ	調査圃場では、発生が確認されませんでした。
カメムシ類	調査圃場では、発生が確認されませんでした。

3 これからの管理について

① 葉いもち病

6月14日、15日、22日がいもち病発生の感染好適日でしたが、圃場においていもち病の発生はあまり見られませんでした。ただし常発地ではよく圃場を見回り、葉いもちが発生している圃場は早急に防除しましょう。また、穂いもち対策として出穂前には必ず予防しましょう。

② ウンカ類

今年は、ウンカ類の飛来が少ないと考えられます。今回の調査でも、一部の圃場で見受けられた程度です。今後の発生状況に注意し、基幹防除として極早生品種では出穂前にビームトレモンセレン粉剤DLを10aあたり4kg散布、早中生品種は生育期にアプロードロムダンモンカットF粉剤DLを10aあたり4kg散布しましょう。

③ カメムシ対策としては、「カメムシのすみか＝イネ科雑草の穂」を作らないことが大切です。出穂の2週間前までに畦畔等の草刈りを実施し、本田のヒエは早めに引き抜きましょう。

④ 近年、紋枯病の発生が増えています。前年に発生したほ場では注意が必要です。

⑤ 中干し後は、稲の根を健全に保つために、間断灌水の水管理を行い、極端に干したり水のためっぱなしは控えて下さい。

⑥ 兵庫県農業気象情報では、高温により稲の生育が早まると予測されています。穂肥診断を的確に実施し、穂肥の適期施用に努めましょう。